

フランス・パリ・ディドロ大学

人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻 博士前期課程
歴史文化学コース
原田佳織

私はフランスのパリ第七大学（パリ・ディドロ大学）に交換留学生として1年間在籍しました。寮には現地学生の他に各国からの留学生も多く住んでいました。交換留学生として派遣していただいたことで、渡航前から第七大学の日仏学生のアソシエーションの方々が連絡をくださったり、初日には日本語学科の先生が日本からの交換留学生のためにオリエンテーションを開いてくださったりしたので安心して留学生活を開始することができました。

大学の授業としては、前期は主に語学コースをとり、美術史の講義の聴講もしました。後期はそのほかに第七大学で美学の講義を履修しながら、他のパリ大学の修士課程でも聴講生として参加を許可してくださった美術史のゼミ・講義に出席していました。

語学のコースではフランス語を学びながら各国からの留学生たちと話をすることができました。とくに第七大学に多いアジアからの留学生と交流できたことは、フランスで美術史を学びたいと日本から留学をした自分にとって視野の広がる経験でした。第七大学の修士課程で履修をした美学の授業は、一学期間あるひとつのテーマについて複数の先生方や研究者の方から講義をしていただくものでした。相当なスピードで二時間続けられる講義を聞き取るのは容易ではありませんでした。それでも聞き慣れてくると毎回数ページのノートを取り、参考文献にあたるということもできるようになりました。しかし学期末の筆記試験は辞書などの使用が許可されず、現地学生と同じ条件のもと三時間論述するというもので本当に苦労しました。美術史の授業では、19世紀後半から20世紀初頭のフ

ランス美術を中心として美術批評について、実際の研究や調査により即したかたちで学ぶことができました。専攻はフランス近代美術史であったのですが、たまたま参加者中で唯一のアジア人だったこともあり、日本人として無意識であったことに気付かされる場面も多々ありました。大学や図書館での勉強と、歴史のあともあちこちに残る街の中にこうして暮らすことで得られる実感とが繋がっているということは、パリを留学先とした最大の収穫であったと思います。

最初は、言葉の面の困難だけでなく習慣や制度の違いに戸惑うことばかりでした。一方で、現地で生活をして初めて気が付く人々の暮らし方、考え方も多く、日々楽しみもたくさんありました。派遣前に想定されたような非日常の留学生活ではなくて坦々と学ぶことのできる日常を得られたのは、周囲の人たちの温かい支えがあつてのことでした。自分の身となった貴重な経験を、今後研究に役立てるだけでなく何らかのかたちで還元してゆきたいと思います。そして様々な可能性のあるこのような留学制度を多くの方に活かしていただけると良いと願います。